

チャイルドラインを「あなた」に「つたえる」情報誌

With You

第67号 2020年夏



特定非営利活動法人

よこはまチャイルドライン

Tel 045-342-0255 Fax 045-342-0288

<http://www.yokohama-childline.com>

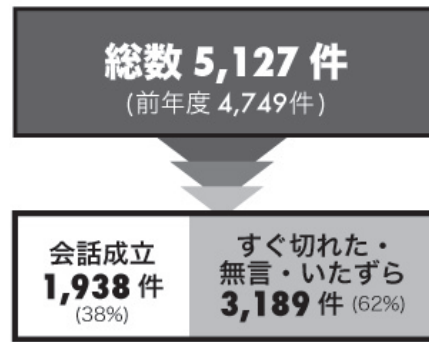


チャイルドラインは
子どもたちの話を一生懸命聴きます
2019年度、チャイルドラインに寄せられた子どもたちの電話から

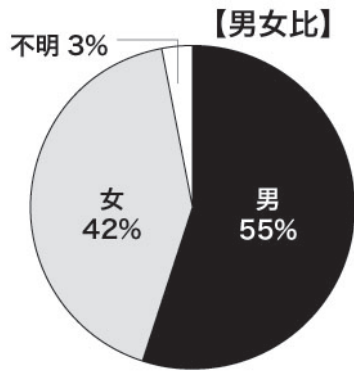
2019年4月1日から2020年3月31日までの1年間に、よこはまチャイルドラインが受けた子どもたちの電話は5127件でした。昨年度4749件と比べると、少しではありますが、約400件増えました。

そのうち、会話が成立したのは1938件（昨年度1967件）、会話不成立の電話は3189件（昨年度2782件）、年間平均会話成立率は38%（昨年度42%）でした。

【着信状況】



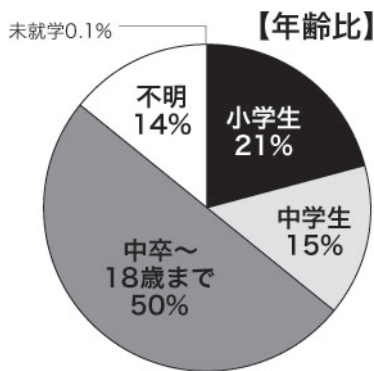
今年度の電話件数および相談内容を表にまとめてみました。会話成立した電話の男女比は、男の子が約55%（1,064件）、女の子が約42%（812件）、不明が約3%で、昨年同様、男の子が上回っています。



未曾有の危機に

年齢別では、小学生が21%、中学生が15%、高校生が50%、不明が14%でした。電話の内容別では、昨年同様に「自分」「学校・フリースクール」「性に関する事」がトップ3。続いて「家庭」「部活」と続きます。また今年度も、「ネットトラブル」についての電話は多くありました。

「学校がお休みになって、家にいるようになったら、お母さんがおこってばかりいる。以前はそうでもなかったのに、なんかいやな



【電話内容別内訳】

内容	件数
自分	672 件
学校 / フリースクール	517 件
性に関する事	377 件
家庭	239 件
地域	54 件
部活	47 件
職場	10 件
ネットトラブル	22 件
不明	3189 件

感じ」（小学男）
「学校がお休みになって、自粛なので、出かけられない。友だちに会えなくなってさみしい。早く会えるようになるといいなあ」（中学女）
「毎日、コロナのニュースばかり。わたしは見たくないけど、お父さんとお母さんは毎日見てるので、わたしも見るようになって、心配になってきた」（小学女）
2020年2月27日、新型コロナウイルスが猛威を振るい始めると、突然、安倍首相は全国一斉の休校を要請し、日本中の学校が休校となりました。職場ではテレワークが推奨され、ステイホームとなり、多くの子どもたちが家で過ごすことを余儀なくされました。

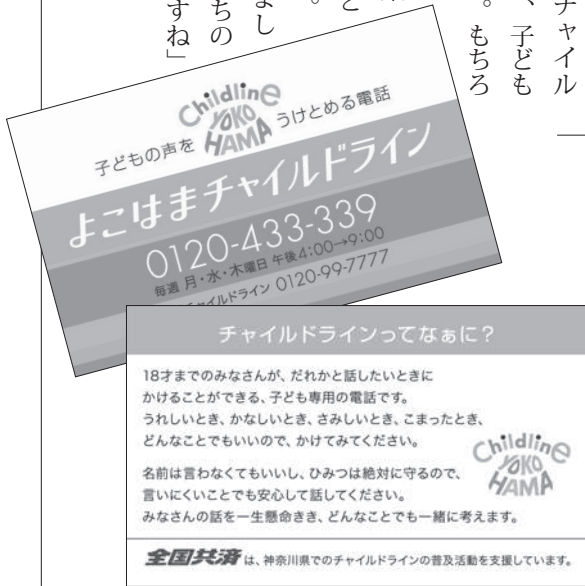
「学校がお休みになって、初めは喜んでいた子どもも、春休みになり、新学期になってもまた休校延長になると、さすがに心配になったみたいです。友だちには会えないし、勉強はどうなるかなあ、とね」
中学生の娘さんのいる受け手のYさんは語ります。
新型コロナウイルスという未曾有の危機で、世の中が一変し、おとなは右往左往していました。外出もままならず、一日中家で過ごさなければならなかった子どもたちもきつとストレスをため込んでいたことでしょう。
本来、こんなときこそそのチャイルドラインで、子どもの不安な気持ちやつらさに寄り添うことが大事な使命なのですが、子どもの声

を受け止める「受け手」はすべてボランティア、無理をお願いするわけにもいかず、そしてチャイルドラインからクラスターを発生させてはいけない、などと考えると、4月と5月はチャイルドラインの活動を自粛せざるをえませんでした。

「子どもたちのことを考えると、なんとかできないかと切なくなります」

多くのスタッフが忸怩たる思いでいましたが、「いのちを守る」ことの前に、どうすることもできなかつたのが実情です。

そして、緊急事態宣言が解除され、6月からよこはまチャイルドラインの活動を再開し、子どもの声を受け止めています。もちろん、現場ではマスクの着用、電話の消毒など感染予防を徹底していることは言うまでもありません。「再開できてほっとしました。少しでも、子どもたちの気持ちに寄り添いたいですね」（受け手 Gさん）



チャイルドラインは、子どもにとって「ななめの関係」

「チャイルドラインカードに、子どもの話を一生懸命に聴く、と書いてあったので、いいなあと思つて、電話しました」

声の様子から、中学生くらいの男の子のようでした。電話を受けたNさんは、

「そうですね。きみの話も一生懸命に聴くから、どんなことでも話してね」と答えました。

「学校が休みになつて、どうやつ

て勉強していいのかわからないので、勉強が手につかない。友だちはちゃんとやってるかもと思うと、勉強が進んでいない自分のことを考えて、すぐくあせつてしまふ。だれにも話せないし、どうしよう」

一斉休校になり、不安な気持ちを抱え、だれにも言えず、どうすることもできなかったのせいで、う。ぽつぽつと語り始め、受け手がそれこそ一生懸命に耳を傾けると、自分の思いを吐露してくれました。受け手は、男の子の不安な気持ちをしっかりと受け止め、どうすればいいのか、ともに考えました。

自分の力では一斉休校はどうしようもないこと、しかし、これまでの復習などいままですることもあるので、それをやっていくなど、彼なりに納得のいく答えをみつければ、少し元氣を取り戻したようでした。

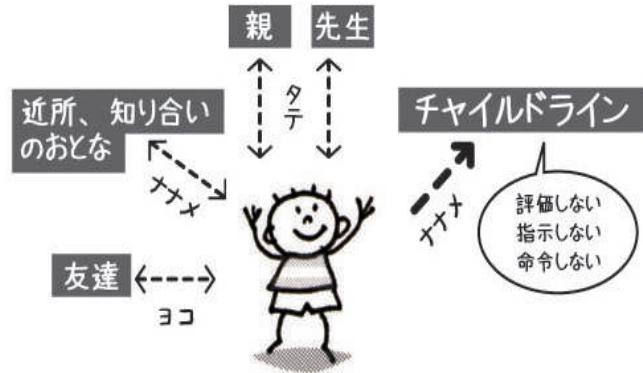
いうまでもなく、チャイルドラインは子どもの声を「一生懸命に」聴きます。たとえば、「友だち

をいじめてしまった」「万引きしてしまった」など、子どもにとって都合のよくない話でも叱ることなく、子どもの気持ちに寄り添いながら、一生懸命に聴きます。子どもとて、いじめや万引きはよくないことは百も承知です。しかし、それでもいじめや万引きをせざるをえない、子どもには子どもなりの理由があつて、そのどうしようもない悲しみやつらさに寄り添うのです。

現代は子どものまわりの人間関係が狭くなってしまつて、いまや、自分の周りにおとなは、親と先生だけ、という子もめずらしくありませぬ。狭い人間関係とそれに付随する居場所のなさ。以前は、親や先生だけでなく、祖父母や叔父叔母、いとこ、近所のおとな、お店のひと、異年齢の仲間など子どものまわりにはさまざまな「意味ある他者」がいて、たくさんの人間が子どもを見守つていました。彼らは親や先生ほど近い存在ではないので、子どもにも過剰な期待もせず、押し付けがましくない

視線を送り、困ったことがあればなにくれと面倒をみたものです。この関係は「ななめの関係」といえます。

ゆたかさを求め、わたしたちがつくりあげてきた経済優先の社会は、地域コミュニティを崩壊させ、子どものまわりからこのような「第三のおとな」を奪ってしまいました。「無駄を省く」ことが経済論理ですが、省いてはいけない



「子どもの育ちのための環境」まで簡素化してしまったのです。チャイルドラインは、地域社会から消えてしまった「ななめの関係」のおとなを意識的につくったラインで、子どもにとっては「第三のおとな」「あたたかい他人」です。ですから、「傾聴」と「見守り」が基本で、お説教や指示命令はしないのです。

「受け手の活動を通して感じたことは、今も昔も子ども自身は変わってないということ。純粹で素直でけなげ、一生懸命に生きている。変わったのは、子どもを取り巻く環境、自然、おとなの対応だと思ふ。話を聴いてくれるおとなが周りにいなんだな、としみじみ思う。チャイルドラインの果たす役割の大きさを実感しています」

多くの受け手の感想です。

非言語コミュニケーション ションの大切さ

さて、新型コロナウイルスの流行で、これからの時代、デジタル

化は急速に進行し、そしてひととひとが会わない非接触型社会になっていくことは間違いないでしょう。それに伴い、暮らしの容は避けられず、コミュニケーションの方法も変わっていくことは否めません。

「会う」「手紙」「電話」「メール」「ライン」「ズーム」など、いままさざまなコミュニケーション方法がある現代にあって、これまでも生まれたときからネット環境が当たり前の中小学生は、直接会う、手紙を書く、電話で話すから、コミュニケーションの手段はメールやSNSが主流となりつつありますが、この流れが加速していくことは止められないでしょう。

もちろん、オンライン授業は休校で学びの機会を失った子



どもたちに恩恵をもたらし、そして不登校の子どもたちにも希望を与えたことはいまでもありません。

一方で、忘れてならないことは、ともに過ごしたり一緒に食事をしたりなど、「会う」ことによつて知らず知らず交わっていた非言

語コミュニケーションの大切さです。スマホもインターネットもあるので、常にコミュニケーションはできているはずなのに、それだけでは満足できず、孤独感を感じてしまうひとは多いのではないのでしょうか。

京都大学総長で、ゴリラの研究で有名な山極壽一さんの言葉です。「人間らしさは言葉が現れる前につくられていた。会えなくなって、言葉を介さない、人間同士のつながりが人間社会をつくるうえで重要だとあらためて理解できます。そして、これほど情報社会が進み、さまざまなコミュニケーションが生まれても、【会うこと】の代替にできるものはありません」

なかなか示唆に富む言葉で、わたしたちはどう子どもたちに接していけばいいのか、考えさせられます。「会うこと」によって得られるリアルコミュニケーションの満足感や信頼感など、子どもたちに体験してほしいと思います。ここはリアルコミュニケーションの一翼を担う「電話」もが

んばらねば、としみじみ思います。

子どもたちに「電話」の良さを伝えたい

「電話コミュニケーション」の良さとしては、「いま、ここ」のコミュニケーションとして気持ち共有できること、名前を言わなくていいので、子どもにとっては安全な場所であること、耳元で聴くのでこころの深い場所に届くこと、ハッピーホルモンであるオキシトシンができること、などがあります。一方で、ソーシャルワークができないこと、そしていまどきは電話をかけたことがないという子どもも多くいて、ハードルが高いことなどの難しい面もあります。

それでもなお、やはり子どもたちになんとか電話を使って、電話コミュニケーションのゆたかさを体験してほしいと思います。たとえば、ハードルは高くても、いや高いからこそ得られる満足感はメールを凌駕していると思うからです。

「友だちってなんだろう。メールでつながっている友だちはいっぱいいるけれど、なんか慢性的に孤独を感じる」(中学女)

どんなにメールでつながっていても、決してこころは満たされないという本能的な叫びではないのでしょうか。

コミュニケーションは人間が生きていくうえで不可欠のものであり、コミュニケーションのゆたかさはそのまま人生のゆたかさに直結すると言っても過言ではありません。いくら便利で手軽なコミュニ



ケーションだからといって、子どもがメールに頼りすぎるのを看過してはならないと思うのです。

子どもたちにはたとえハードルは高くても、メールに比べて情報量が多く、「いま」「ここ」という情報共有がなされ、子どもたちに人間の体温をストレートに感じることのできる、ゆたかな電話コミュニケーションの魅力を知ってほしいと思います。これは、ひととして生まれた人生の醍醐味のひとつでもありますし、子どもたちがコミュニケーション能力を会得するための一助にもなりえるものですから。

しかし、こればかりはいくら言葉でその良さを説明しても、子どもたちにわかるはずもなく、やはり経験してもらおうしか実感するすべはありません。おとなが意識して、子どもに電話を使わせる、ひとに会う、ということを経験させることが大切なのではないでしょうか。

チャイルドラインもそういうお手伝いができればいいな、と思います。

子ども支援者養成講座 2020【前期】 が開講しました

子ども支援者養成講座は、本来であれば50名近くの受講者の方々に
お越しいただく予定でしたが、コ
ロナ禍により、ビデオ会議システム
zoomを使用したオンライン受講
に切り替えてのスタートとなりました。

第1回目の7月4日(土) 当代表
理事 徳丸のり子による講座には、オ
ンライン受講に改めてお申込みをい
ただいた33名全員の方がオンライン
上で一堂に会し、受講していただき

ことができました。会場での実施が
できなかったことはとても残念です
が、画面の向こうからは皆さんの熱
心な思いが伝わり、とても充実した
2時間半となりました。



▲初青少年育成センター研修室より
生配信した第1回講座。

子ども支援者養成講座 2020【前期】		
第1回	チャイルドラインとは (7月4日)	よこはまチャイルド ライン代表理事 徳丸 のり子
第2回	虐待の支援 (7月11日)	弁護士 NPO 法人つなぐ代表 飛田 桂
第3回	LGBT とは (7月18日)	LGBTの若者支援・ 研修講師 遠藤 まめた
第4回	不登校・引きこもりの 支援とは (7月25日)	子ども若者支援 カウンセラー 臨床発達心理士 滝田 衛
第5回	発達障がいとは (8月1日)	臨床心理学博士 中本 テリー

非常事態宣言解除後の 活動再開にあたり、 メディアの取材を受けま した

◆6月1日 NHK 首都圏 845 でTV
放映。
インターネットのNHK NEW WEB
(神奈川) ページにて1週間、放映
された映像が掲載されました。

◆6月17日 J:COM ケーブルテレ
ビの「つながる news」でTV 放映。
無料アプリ「ど・ローカル」のアー
カイブ(6月17日分)で1週間配
信されました。

2020年度 通常総会

6月13日(土)に2020年度通常総会が行な
われました。今年度の通常総会は、新型コロナウィルス
感染拡大防止のために書面表決で行いました。事前に
107名の正会員のみなさまに議案書と書面表決書を
郵送し、当日は、事務所で議長、議事録署名名人2名の
みで行いました。初めて行う方法だったために戸惑い
もありましたが、市民局からのご指導をいただきなが
らなんとか無事に終えることができました。

第1号議案から第4号議案まで80名の賛成書面を
提出いただき、すべてにおいて議決されました。議決
結果は当ホームページからもご覧いただけます。
正会員のみなさまのご協力に心から感謝申し上げます。

よこはまチャイルドライン 電話利用状況

19年12月～20年3月

主訴	12月	1月	2月	3月
学校 フリースクール	44	25	38	12
部活	3	1	1	11
性	26	35	14	31
家庭	24	8	13	10
職場	1	0	2	4
ネット トラブル	0	1	2	2
地域	5	0	3	19
自分	41	44	49	37
不明	295	282	268	200
累計	439	396	390	326

はい、チャイルドラインです。

「新しい生活様式」

ソーシャルディスタンス、三密の回避、テレワーク、オンライン会議など私たちの日常は変化しました。戸惑っているおとなの姿を子どもたちはどのように見ているのでしょうか。

学校休業、学校行事の自粛、楽しみにしてきた地域のイベントの中止の知らせが続々と届く中、チャイルドラインにも「新しいクラスになって友達を作りたいのにどこまで近付いていいかわからない」「近付いたら嫌がられるのではないか」という電話もあります。

感動を共有したい時のハイタッチや肩を組むことも躊躇される状況で子どもたちも手探り状態なのでしょうね。

子どもたちの柔軟な発想で新しい生活様式、新しい日常を作り出していつて欲しいと願う変化

の年、2020年。

電話を受ける私たちも固くなった頭を柔らかくしながら子ども達の話を受けとめていきたいと思いを新たにしています。



RECOMMEND

By. 猫のみみ

Book アーモンド

著/ソン・ウォンピョン(祥伝社)

脳の扁桃体(アーモンド形)は恐怖や不安を感じる場所。そのアーモンドが人より小さく感情がわからない少年と激しい怒りを持つ少年の物語。

「愛って誰もが持っている感情?」…いや、愛はもらっていないと心に愛は存在しないのかもしれない。

愛をもらった人が愛を与えられるんだ。赤ちゃんがかわいいのは、愛をたくさんもらうため。あの天使の微笑は愛を集めるためのものなんだ! この本を読んで考えました…。

Movie きつと うまくいく

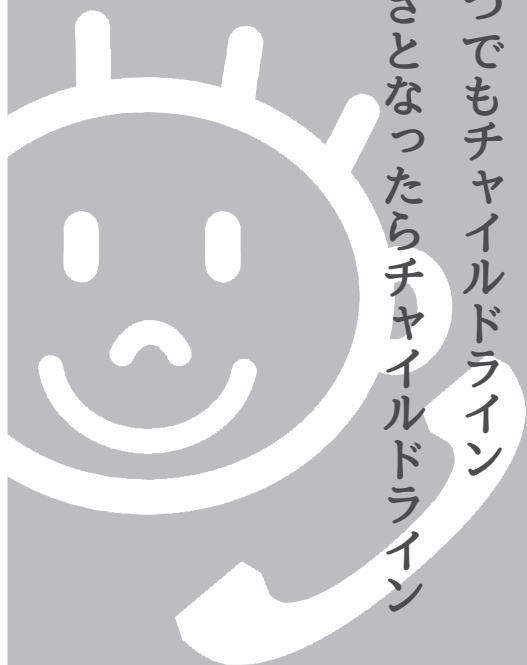
監督/ラージクマール・ヒラニ

生まれた時から将来の仕事を親に決められ、自分の好きなこと、やりたいことには目を向けず、親の期待にそうように育てられてきた若者たちが、本当に好きなことをして楽しんで生きている友人に出会う。

目の前の課題に必死にとり組んでいくことで、地位やお金ではなく、自分のやりたい道を見つけていくことが幸せだと気づいていく。

深刻にならず、ユーモアに変えていくインド映画が私は大好きです。

いつでもチャイルドライン
いざとなったらチャイルドライン



ご支援ありがとうございます



よこはまチャイルドラインの活動は、多くの方のご支援で成り立っています。
子ども達からのフリーダイヤルの費用など、これからも皆さまからのご寄付が必要です。
どうぞ応援よろしくお願いたします。

2019年12月1日～2020年3月31日のご支援総額 **1,141,750円**

あなたにもできる社会貢献

● 会員募集 ●

個人	正会員	3,000円/1口	総会の議決権あり
	賛助会員	3,000円/1口	—
法人	正会員	10,000円/1口	総会の議決権あり
	賛助会員	10,000円/1口	—

よこはまチャイルドライン賛助会員の
年会費は、「寄付金」になります



年会費は何口でも歓迎!

ご入金は郵便局の払込票をご利用ください

※匿名希望の方は、その旨払込票にお書き添えください

□座番号 **00270-6-13812**
□座名 **NPO法人よこはまチャイルドライン**
ゆうちょ銀行 当座 ○二九店13812

よこはまチャイルドラインに寄付すると 「寄付金控除」が受けられます

横浜市の認定NPO法人であるよこはまチャイルドラインへの寄付は、「寄付金控除(税額控除)」の対象となり、確定申告をすることで税制上の優遇措置が講じられます。

所得税

【寄付金の合計額-2000円】×40%が税額控除されます。
※所得税額の25%が上限です

住民税

横浜市に在住の方は【寄付金の合計額-2000円】×10%が税額控除されます。※お住まいの自治体によって異なります

相続税

相続または遺贈により財産を取得した方が、取得した財産を相続税の申告期限内に寄附した場合、寄附をした財産には相続税が課税されません

法人税

法人による寄付は、一般寄附金の損金算入限度額とは別に、損金算入することができます。

詳細な手続きについては、最寄りの税務署にお問い合わせください

● 未使用切手、書き損じハガキはありますか? ●



一年を通じ、神奈川県内の小中高生一人ひとりへチャイルドラインカードを配布しています。その数、実に127万枚。未使用の切手や書き損じのハガキはその配送代に充てることができます。封書に入れ、下記の宛先まで郵送してください。未使用のテレホンカードも大歓迎です。ご協力お願いいたします。

〒240-0002 横浜市保土ヶ谷区宮田町1-70-16 よこはまチャイルドライン事務局宛

編集後記

新型コロナウイルスが猛威をふるう数カ月間、ひとの無力さを知った。

そして今は、コロナ禍を経験している子どもの未来を案じながら、ただ一生懸命に子どもたちの声を受けとめる。それが私たちチャイルドラインの役割だから。